



福島まで(新幹線) 大学まで

- 東京から約1時間40分
- 小山から約1時間10分
- 宇都宮から約45分
- 仙台から約30分
- 山形から約1時間10分
- JR/東北本線金谷川(かなやがわ) 駅下車 徒歩10分
- バス/福島駅から二本松方面行き乗車 福島大学下車 徒歩10分

高速バス

- 仙台駅から福島駅まで約1時間20分
- 会津若松駅バスターミナルから福島駅まで約1時間30分
- 新潟駅から郡山駅まで約2時間50分

茨城方面からお越しの場合

- 高萩駅よりJR常磐線特急でいわき駅まで約35分
- 日立駅よりJR常磐線特急でいわき駅まで約45分
- 水戸駅よりJR常磐線特急でいわき駅まで約1時間10分
- いわき駅より高速バスで福島駅まで約2時間



福島大学
公式マスコットキャラクター

めばえちゃん

プロフィール

4月7日生まれ。
出身地 福島県阿武隈高地
性格 のんびり屋 いつもニコニコ
お仕事 福島っ子の応援・福島県産品のPR
福島県の復旧・復興のお手伝い
福島大学のPR

福島大学入試課

公式LINE



入試に関する
お問い合わせ先

福島大学入試課 〒960-1296 福島県福島市金谷川1番地

TEL. **024-548-8064** (平日/9:00~17:00)

※お問い合わせは、できるだけ受験者本人が行ってください。



このフレットは環境に配慮した
「水なし印刷」により印刷しております。



環境にやさしい・植物油インキ
「VEGETABLE OIL INK」で
印刷しております。

福島大学 大学案内 2026



国立大学法人

福島大学
Fukushima University

GUIDE
2026

FUKUSHIMA
UNIVERSITY

福島イズム

この地とともに学び、歩む。





この地とともに
学び、歩む。

Fukushima Ism

福島イズム

街へ出よう。仲間と共に地域（フィールド）に入ろう。

ここでずっと暮らしてきた人々の声に耳をすまそう。

それがどんなに小さな声で、実現が容易ではないことであっても。

君たちが歩むのは、まだ誰も歩いたことのない道。

復興への想いと、難題に立ち向かう精神があれば、きっと越えていける。

青空に高く高く、希望の旗を掲げよう。



INDEX

- 01 福島イズム
- 03 学長メッセージ
- 05 福島大学グランドデザイン2040
- 07 学群・学類再編
- 09 特集 革新と協働で、様々な課題に取り組む
- 11 福島国際研究教育機構 F-REI
- 13 「正解のない問い」にチャレンジ
- 15 「地域×データ」実践教育プログラム
- 19 世界で学ぶ
- 21 学類・コースINDEX
- 23 人間発達文化学類
 - 24 社会で活躍する卒業生
 - 25 カリキュラムの特長
 - 27 学類長メッセージ
 - 28 実習ピックアップ・教員紹介
 - 29 コース紹介
- 33 行政政策学類
 - 34 社会で活躍する卒業生
 - 35 カリキュラムの特長
 - 37 学類長メッセージ・教員紹介
 - 38 学びピックアップ
 - 39 1年次の学び
 - 40 2年次の学び
 - 地域政策と法コース
 - 地域社会と文化コース
- 42 3年次・4年次の学び
- 43 夜間主紹介
- 45 経済経営学類
 - 46 社会で活躍する卒業生
 - 47 カリキュラムの特長
 - 49 学類長メッセージ・教員紹介
 - 50 活動ピックアップ
 - 51 経済学コース
 - 52 経営学コース
 - 54 コース横断プログラム
- 55 共生システム理工学類
 - 56 社会で活躍する卒業生
 - 57 カリキュラムの特長
 - 59 学類長メッセージ・教員紹介
 - 60 履修基準表
 - 61 コース紹介
 - 63 施設や教育プログラム
- 65 食農学類
 - 66 社会で活躍する卒業生
 - 67 カリキュラムの特長
 - 69 学類長メッセージ
 - 70 1年次の学び・教員紹介
 - 71 2年次の学び・コース紹介
 - 73 2年次前期～3年次の学び
- 75 大学院
 - 77 キャンパスマップ
 - 79 フクニチャージ図書館・食堂・生協・年間スケジュール
 - 81 福大生が語る「福大キャンパスライフ」
 - 83 STUDENT'S LIFE
 - 85 クラブ・サークル活動の紹介
 - 87 就職・進路支援
 - 88 進路状況
 - 89 入試データ
 - 90 学費・奨学金

福島大学でしか 学べないこと

President
Message

福島大学学長 三浦 浩喜



- 2045年、AIがすべての人類の知能を超える(米国の未来学者 レイ・カーツワイル氏)
- 2011年度にアメリカの小学校へ入学した子どもたちの65%は、大学卒業時に「今は存在しない職業」に就くだろう(デューク大学 キャシー・デビッドソン氏)
- 2007年に日本で生まれた子どもは、107歳まで生きる確率が50%もある(イギリスの経営学者 リンダ・グラットン氏)
- この10年ほどで、日本の職業の約半数がAIやロボットに代替される可能性がある(野村総合研究所)
- 2040年には全国1,800ある市区町村のうち、半数の存続が困難になる(増田寛也氏)

科学の進歩によって、将来の姿はより精密に描れるようになりました。近年、世界中の研究者や政治・経済の専門家たちが、データを駆使してさまざまな未来予測を発表しており、その多くが私たちに衝撃を与えています。もちろん、これらの予測がすべての中するわけではありませんが、社会が確実に変化し、予測された方向に進んでいることは事実です。

人間にとって経験の積み重ねは大切ですが、一人の経験には限界があります。だからこそ、科学的な知見をもとに将来を予測し、「いま、何をすべきか」「何

をすべきでないか」を逆算して考える力が、ますます重要になっています。

もし予測通りに社会が変化していくとすれば、皆さんは、これまでの大人たちが経験したことのない「想定外」の時代を生きることになります。これまでなら、経験豊かな大人に相談すれば適切なアドバイスを得られたかもしれませんが、これからはその保証はありません。だからこそ、自分自身で考え、判断し、行動する力が求められるのです。

たとえば、

- 地球温暖化を効率的に抑える方法
- 誰もが困らずに使えるエネルギーの創出
- 災害で壊れた地域コミュニティの再生
- 人間にとって有益かつ安全なAIの活用方法
- 戦争を終わらせるための現実的な方法

これらは、いずれも単一の答えが存在しない問題ばかりです。多様な知識や視点を結集し、多くの人が試行錯誤を重ねながら、ようやく糸口を見つけていくしかありません。こうした現実社会では、唯一の正解にたどり着くの何年もかかることが珍しくありませんし、複数の選択肢の中から最適解を選び取る姿勢が求められます。

そこに必要なのは、課題に向き合う情熱、解決に必要な知識や技術、そしてそれを実行に移すための人と人とのつながりです。

福島は、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故という未曾有の災害により、世界的に知られる「悲劇の

地」となりました。しかし同時に、さまざまな支援活動や新たな研究、外部からの知見や人材が集まり、いまや復興が着実に進む「希望の地」としての側面も持ち合わせています。

福島大学では、震災直後から学内に避難所を設け、住民や子どもたちを支援するボランティア活動を展開してきました。学生と教職員が一体となって困難に向き合い、地域に根ざした取り組みを重ねてきた経験があります。

私たちの教育は、教科書の知識を一方向的に教えることを目的としません。むしろ、学生自身が現実社会に飛び込み、複雑な問題を自らの視点で発見し、仲間と共に探究し、自分の生き方や社会のあり方を真剣に考える場を提供することを大切にしています。

未曾有の経験を乗り越えてきた福島という地で、福島大学でしかできない学びがあります。本学での学びと経験は、予測不可能・不確実・複雑・曖昧な“VUCA”の時代を生き抜く上で、きつとかけがえのない力になるはずです。

福島大学 グランドデザイン 2040

— 激変の時代に、柔軟に、かつ強靱に大学づくりをすすめるために —



「福島大学グランドデザイン2040」は、未来の福島大学の設計図です。

福島大学は、一人ひとりのWell-beingと、社会のWell-beingを実現する「新しい社会のあり方」を提案できる大学を目指します。
そして、時代の変化に強く、柔軟に対応できる大学に**進化**します。

「正解のない問い」に挑む力を育てる!

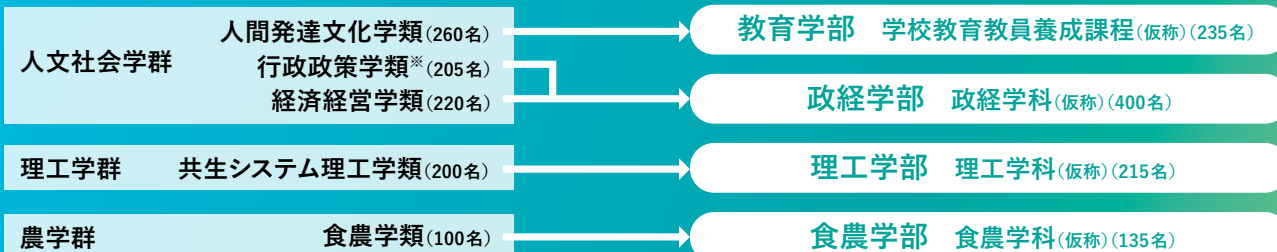
これからの社会は、教科書に載っていない問題ばかり。福島大学では、実際の地域の課題に向き合いながら、自分で考え、仲間と協力して答えを探す力を育てます。

地域と世界をつなぐ研究を強化!

東日本大震災以降、福島大学は多くの研究プロジェクトを生み出してきました。これからは、人文社会科学、環境やエネルギー、食と農など、最先端の分野を横断した研究を通じて、社会を変えていきます。



令和9(2027)年度 3学群5学類から 4学部に変わります。



※夜間主は廃止されます。

学部名や開設時期はいずれも予定であり、変更が生じる可能性があります。

福島大学グランドデザイン2040の要点

— 激変の時代に、柔軟に、かつ強靱に大学づくりをすすめるために —

VUCAの時代に直面する多様な課題の中、福島大学は法人化や震災を経て得た知見を活かしつつ、人口減少への対応などといった新たな課題に挑んでいます。

大学として対応すべき課題

- ◆国立大学法人としての機能強化・発展
- ◆少子化問題への対応

- ◆財政基盤の強化
- ◆社会における諸問題を解決・緩和できる人材育成

ミッション(使命)

- 「新しい社会のあり方」を提案できる大学
- 個人のWell-being、社会のWell-beingの実現を目指す大学
- 激変の時代に「柔軟に、かつ強靱に」取り組む大学

ビジョン(目標)

- 「正解のない問い」にチャレンジできるイノベーション人材の育成
- 地域と世界における現代的で複雑な課題解決のための研究強化

大学改革

ミッション、ビジョン実現へ向け、新たな教育研究組織を構築

- 教育と研究を一体的に行う新たな学士・修士・博士課程へ改組
- 学長のリーダーシップで意思決定を効率化するためのガバナンス体制の見直し・整備
- 持続可能な大学を目指す財政改革
- 組織と研究分野の再構築で本学の強みを強化
- 県内外の高等教育機関と連携を強化し、機能の共有を実質化

福島大学グランドデザイン2040の本文はこちら▶



バリュー(行動指針)

教育

- 問題解決型教育の推進
- 異分野融合を促進する教育組織の再編
- 教育の質保証徹底と学修者中心のカリキュラム構築

研究

- 異分野間の共同研究を推進
- 人文社会系との融合を期待した理・工・農学系の研究強化
- 環境放射能研究所、発酵醸造研究所、水素エネルギー総合研究所等の研究を進化・発展

地域社会との連携

- 地方国立大学の社会貢献の在り方を再構築・強化
- 研究者が問題解決に関わる地域貢献の実践研究を設計
- 将来の地域の姿や課題を明確化し、逆算して課題を提起

教員養成・附属学校園改革

- 震災・原発事故復興と少子化に対応した教員養成の福島モデルを構築
- 少子化を考慮した附属学校園の抜本的改革を実施

地域に即したグローバル教育を全学で推進

- Fukushima Ambassadors Programを発展させ、地域に即したグローバル教育を全学で推進
- 留学生増加、語学力向上、海外インターンシップ活性化
- 海外との共同研究数の増加

大学は、単に「知識を増やす、蓄積する」場所ではありません。
学修した多様な知識を体系的に理解し応用する力を身につけるための場です。
福島大学は、地域と世界をつなぎながら、未来の社会をつくる実験室です。

「正解のない問いにチャレンジしたい」「自分がやってみたいと思えることを見つけたい」
「地域の人と一緒に社会を変えてみたい」「世界を舞台にグローバルに活躍したい」

そんなあなたに、福島大学は、最適で最高の学修環境を提供します!

令和7年6月時点の情報です。

新しい福島大学で
身につけてもらいたい力

- ①「専門性と社会への応用力」 ②「課題の自分事化と解決への意欲」 ③「分野を超える知識と新たな発見」 ④「協働する力と遂行する力」 ⑤「積極的な働きかけと倫理」

“先生”になるだけじゃない“学び”を創る人になる。

新しい社会づくりの担い手

地域に根ざしたイノベーション人材

地域の未来をひらく「科学と技術」を身につける。

進化3

教育学部 (仮称)

地域課題を掘り起こし教育を通して解決を試みる
地域課題探究コース

国際的な視点で日本や諸外国の文化や生活を考える
グローバル探究コース

数学や理科、技術、アートをつないで課題を解決する
STEAM教育コース

学校現場での活動を通して教師の資質を身につける
教育臨床コース

多様な子どもたちが共に学ぶ教室をつくる
インクルーシブ教育コース

- 1 1年次には教員免許等に沿った<系>で学びます!
●国語系 ●英語系 ●社会科系 ●算数・数学系 ●理科系 ●保健体育系 ●心理系
- 2 以下のような教員免許を取得できます!
●小学校1種または2種(取得必須)
●中学校(国語、英語、社会、数学、理科、保健体育)1種または2種
●特別支援学校1種
●高等学校(国語、英語、地理歴史・公民、数学、理科、保健体育、情報^①)1種
※他学部の講義の受講が必要です。
※その他、公認心理師受験資格など取得可
- 3 2年次より課題別コースに分かれてプロジェクト学習を進めます!

地域のインフラや災害対策、再生可能エネルギーやAI活用、地域の課題の中から技術革新を生み出す「実践型エンジニア」を育てます。

進化5

理工学部 (仮称)

理論と実践力のバランスのとれた情報人材を育成する
情報理工学コース

物理学などを基盤に技術やシステムの創出を担う人材を育成する
メカトロニクスコース

水素などの先進的でクリエイティブな化学系人材を育成する
分子デザイン科学コース

環境を多面的に捉え、計画・管理する人材を育成する
環境システムコース

- 1 入学試験は学部一括で行い、2年次からは4つの専門コースに分かれ深く学びます!
- 2 1年次では、数学、物理学、化学、生物学、地球科学、プログラミング等の理工学の基礎を学びます!
- 3 廃炉や除染技術、再生可能エネルギーなどをテーマに多彩なフィールドワークで実践的に学ぶことができます!

「社会実装力」を身につけ、地域や産業の未来を創る。

基盤教育 × 専門

大学で学ぶための基礎力・問題意識

確かな知識、

教育 × 共創知教育*

最先端の技術

分野横断による「+α」の専門性

進化4

政経学部 (仮称)

地域資源や新技術を活用し新しい価値を創造する
産業・地域社会イノベーションコース

地域企業の新陳代謝をけん引し地域経済を再構築する
経済経営コース

公的な視点で新しい社会の姿をデザインし伴走する
公共政策デザインコース

ビジネス戦略、公共政策、地域経済、国際問題——身近なニュースの「その先」を深く考え、現場で学ぶフィールドワークを通して、社会にイノベーションをもたらす人材を育成します。

- 1 地域の様々な資源を有効に活用して、地域を活性化するための仕組みやサービスを実現できる力を身につけます!
- 2 新しく生み出される技術を多様な形で事業に活用し、企業や地域経済を元気にすることができる力を身につけます!
- 3 専門知識をベースに、連携する企業や自治体等をフィールドとして、基礎・応用・実践の3段階で社会実装力を養います!

持続可能な食のシステム、地域で生産される農作物。食と農を入り口に、よりよい人々の暮らしや社会の仕組みを考えます。

- 1 農業の現場での実習や、福島県全体をキャンパスにして実践的に学びます!
- 2 分野を横断したチームで、地域の食と農の課題に幅広く取り組みます!
- 3 1年次から「土」や「水」に触れ、農場で栽培実習に取り組みます!

進化6

食農学部 (仮称)

食品の栄養や機能を解明し豊かな食と健康を創造する
食品科学コース

気候変動に対応した革新的農業生産技術を開発する
農業科学コース

これからの地域社会と農業の活性化を担う
農業経営学コース

農山間環境の保全と利活用を推進する
フィールド環境学コース

福島大学では、学部教育以外にも様々な教育プログラムを全学生に提供しています。被災地へのフィールドワークとデータサイエンスを組み合わせたプログラムや、Fukushimaの本当の姿を体験しに来る留学生との交流、商品開発や農業の六次産業化をめざすプログラムなど多彩に富んでおり、地域からも高い評価を得ています。

自分の力で地域を理解し変えようとする力を育成する
地域×データ実践教育推進室

学生の留学を支援し海外留学生との交流を図る
国際交流センター

学校現場と多様な子どもを支援する
学校臨床支援センター

地域と連携して一緒に地域の未来を考える
地域未来デザインセンター

VUCAの時代

予測不能で、不確実で、

複雑で、曖昧な社会

*共創知教育

学部・コースの専門領域を超え、「+α」の新たな専門性を身につけ、より実践的で、より現実根ざした学修を目的とした教育です。協働プロジェクトに発展させることもできます。

学生の就職を支援し将来への見通しを形成する
キャリアセンター

学生の健康を守り健康的な生活をサポートする
保健管理センター

バイオマス由来の水素社会のシステムを築く
水素エネルギー総合研究所

原発事故後の環境研究を推進し世界と共有する
環境放射能研究所

発酵の研究を通して食品の価値を高める
発酵醸造研究所

多様な学生の生活をサポートする
アクセシビリティ支援室

進化7

福島大学では、地域社会の未来に必要な最先端の研究をしています。それらの研究は、教育に還元され、地域社会に実装されることにより、国立大学としての使命を果たすことになります。最近では、水素エネルギー総合研究所が設置され、地域の資源を生かしたエネルギーシステムの研究が始まっています。

研究力を向上させ、

地域とともに未来を創る

※本資料に記載の学士課程改革の構想は、今後、文部科学省等関係者と調整の上、令和8年度に文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査を受ける予定です。なお、構想は審査結果によって確定するものであり、変更の可能性あります。

革新と協働で 様々な課題に取り組む

PICK UP



高齢化・過疎化が進む地方都市で 車に頼らず暮らせる地域公共交通を提案

経済経営学類 吉田 樹 教授
専門：地域交通・観光政策、まちづくり、地域経済

福島大学を選ぶ学生は、社会や地域への貢献意欲が総じて高い特徴があります。私の「地域モビリティ戦略研究室」では、まちづくりの中でも交通政策を研究しています。高齢化社会の中で、車を手放しても暮らしていける移動手段の提案は非常に重要です。過度な車社会は渋滞による時間損失や、地球環境面からもマイナスになります。住民の方々に利用していただける公共交通が存在することは、都市や地域の持続性に大きく関わることなのです。

研究室では私が関わっている交通のプロジェクトに学生も参画し、専門的な知識から調査・分析のスキル、その結果を実際の施策に落とし込む社会実装までを、2年半のゼミで経験します。福島県内では会津若松市、いわき市、本宮市で活動しており、仙台市でもまちづくり団体と地元の企業が立ち上げたプロジェクトに関わっています。地域の方々も福島大学に期待や信頼を寄せてくれていますし、大学としても学生たちが地域に出て活動することを後押ししているので、地域で実践的に学んだり、経験したい学生には絶好の環境だと思います。



住民も旅行者も便利に使える公共交通機関

会津若松市の中心部で運行が始まったオンデマンド交通を利用して、地域住民と旅行者の双方が街を楽しむためのクーポンを学生が企画し、協力店舗の開拓などに関わりました。



専門の研究にも広い視野を 与えてくれる環境

様々な専門分野の学生と教授陣がワンキャンパスに集まり、専門を越えて交流しやすい環境は、自分の研究に意外なヒントや気づきを与えてくれます。



東北運輸局と共同で 「おでかけ交通博」を開催

地域公共交通活性化のため、東北6県持ち回りでトークセッションやポスターセッション、開催地でのエクスカージョンを開催。その会場設営や運営に関わります。

地域と共に在るために

東日本大震災、東京電力福島第一原発事故によってもたらされた様々な問題はもとより、人口減少や少子高齢化の問題は震災により10年早まったと言われています。

東北を始め、これから日本全体で起こる社会の変容や問題に対応し、福島大学では地域の方々と共に地域の課題解決に取り組むのはもちろん、自治体や企業と協働してこれからの「新しい社会」を実現する研究に取り組んでいます。ここで学び、研究したことを社会に還元し、役立てること———それこそが福島大学がこの地に存在するゆえんです。

PICK UP

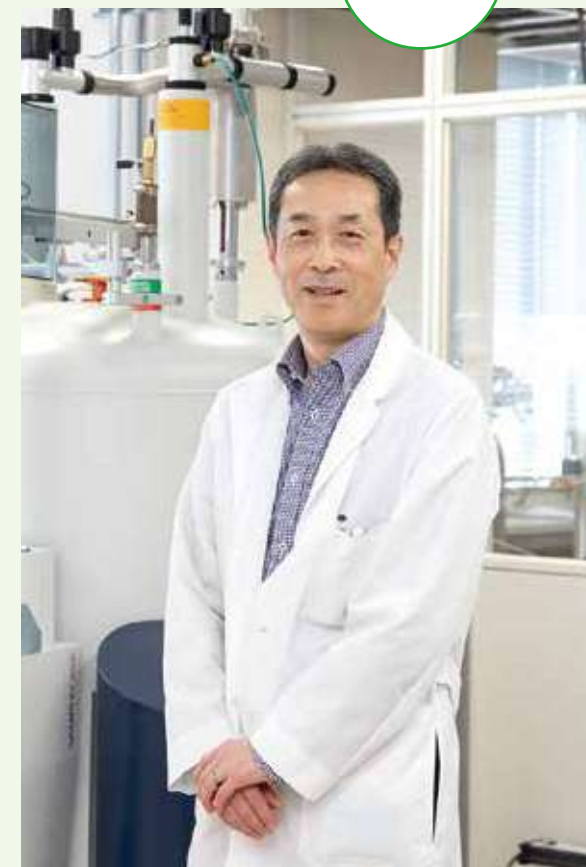
再エネ研究は君たちが主役 最先端の研究に加わって福島・日本の 未来を拓こう

共生システム理工学類 副学類長
水素エネルギー総合研究所 副所長 大山 大 教授
専門：金属錯体化学、触媒化学

私たちの研究室では、自然界にも豊富に存在する二酸化炭素や窒素、酸素、水などを有用な物質に変換する研究を行っており、その変換過程に必要な触媒を開発しています。高校の化学で「金属錯体」という名称で習うハイブリッドな有機・無機複合分子を触媒として設計・合成し、最近では特に水素の利活用を目指した触媒反応の開拓に重点を置いて研究しています。

福島県は福島第一原子力発電所の事故以降、水素を含めた再生可能エネルギーの導入に力を入れ、私たちも県と共に研究を進めてきました。さらに水素を普及させたいという県の強い要望もあり、このキャンパスに水素エネルギー総合研究所を令和6年に開設し、来年度には専用の施設が完成する予定です。当研究所は水素の地産地消を掲げ、福島の豊富な森林資源由来のバイオマスから水素を製造し、輸送コストをかけずに周辺地域に供給するシステムの構築を目指しています。研究所では様々な研究が行われますが、私が所属する「エネルギー貯蔵グループ」では、化学を基盤としてバイオマス由来の水素や炭化物をほかの物質に導入して付加価値を高める研究をメインに行います。

2050年のカーボンニュートラル達成に向け、この分野はこれからますます発展していきます。「水素」を中核に、県や水素関連企業と共に産学官が一体となった最先端の研究に君たちも加わりませんか？



化学実験の体験で 水素をもっと身近に

小中高生や一般市民向けに、水の電気分解や燃料電池の原理がわかる実験を学生とともに実施。将来の研究人材を育成する上でも重要な取り組みです。



金谷川キャンパスは ストイックに研究できる環境！

研究室では日々実験と分析・解析を繰り返しています。金属錯体はわずかな状態の違いで様々な色に変化する視覚的な面白さもあります。



福島、そして日本の未来を支えるプロジェクト

水素エネルギー総合研究所では、理工系だけでなく社会科学系や農学系の教員も加わり、様々なアプローチで水素エネルギーの普及・拡大を模索していきます。

福島、そして世界の課題解決に向けた福島大学の研究

福島国際研究教育機構 (F-REI) への参画

福島国際研究教育機関(Fukushima Institute for Research, Education and Innovation、通称F-REI)の
公募事業に福島大学提案事業が採択され、研究が進められています。

令和6年度は4分野7研究が実施され、令和7年度も継続して研究が進められます。福島をはじめ、東北の復興の実現が期待されます。

令和6年度 事業内容

第1分野 ▶ ロボット ◀

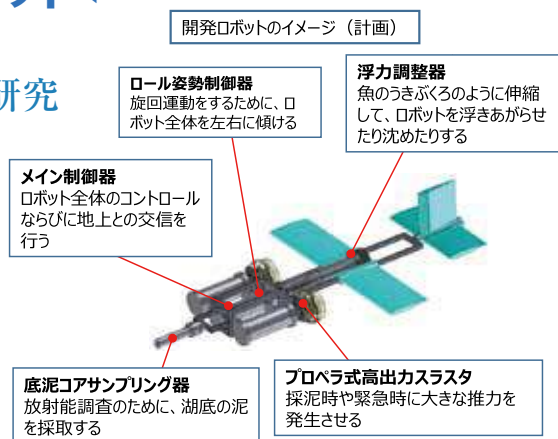
◆ 環境放射能動態調査のための 水中ロボットの開発とその応用に関する研究

共生システム理工学類: 高橋 隆行 教授(代表)

事業内容

水中の調査活動におけるロボットの活用を図るため、東京電力福島第一原子力発電所事故に起因する環境放射能の動態研究への応用を主として想定し、水深100m程度、淡水での底泥コアサンプリングを行うことのできる水中ロボットを開発する。

具体的な調査対象としては、猪苗代湖ならびに大柿ダム(請戸川)を想定し、岸から投入して自律的にコアサンプリングを行う機能を実現する。

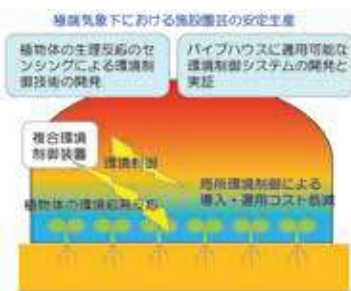


第2分野 ▶ 農林水産業 ◀

◆ 極端気象に適応する 次世代型ハウス環境制御技術の開発

食農学類: 深山 陽子 教授(代表)

福島県を含む我が国でもっとも多いパイプハウスを利用した施設園芸をターゲットに、近年発生頻度が高い短期間の急激な気象条件変化に適応可能かつ持続的利用が可能な技術の開発と実証試験を行い、安定した生産と営農の実現に貢献する。



◆ 土壌低分子有機物の植物栄養学的影響の解明

食農学類: 菅波 眞央 特任講師(代表)

有機物の分解産物である低分子有機物が植物栄養における炭素源、窒素源となるという作業仮説を実証し、低分子有機物吸収メカニズムや根圏環境における植物-微生物間の物質輸送を解明し、その制御機構を明らかにする。さらに、植物が低分子有機物を有効利用する施肥条件を解明し、土壌肥沃度の新たな指標として安定生産に寄与する低分子有機物を導入することで、やませなど不安定な天候が懸念される浜通り地域に広がる除染圃場での効果的な農地再生を実現することを目的とする。



第2分野 ▶ 農林水産業 ◀

◆ 福島浜通り地域等の 農林水産業の未来デザイン

食農学類: 小山 良太 教授(代表)

社会全体の将来的な変容(技術ニーズ調査)に基づくバックキャストの予測と現状を起点とするシミュレーションによるフォアキャストの予測を分析する。その上で前提にとらわれない福島浜通り地域の農林水産業の将来像・方向性を示すため、様々な分野の有識者等との意見交換等を踏まえ、将来像を考察し、浜通り地域の将来的な農林水産業を踏まえたテクノロジーニーズの整理と技術活用・普及に対する地域の適否を整理する。



◆ 果菜類収穫作業の軽労化につながる 協働ロボットの開発及び新たな協調作業体系の構築

食農学類: 窪田 陽介 准教授(代表)

ピーマンの露地栽培における収穫作業について、作業姿勢や心拍指数から作業負担を評価し、収穫ロボット導入による協調作業体系の構築による負荷軽減の方策について検討する。その方策を踏まえて、露地栽培におけるピーマンの選択自動収穫を実現する新たな要素技術の開発と収穫ロボットの設計・製作を行う。また、本研究で作成するピーマン植物体モデルを配置した限定環境下において、年間を通したロボット性能評価試験の実施が可能となり、露地栽培における収穫ロボットに適した新しい栽培方法、環境、作業体系を構築する。

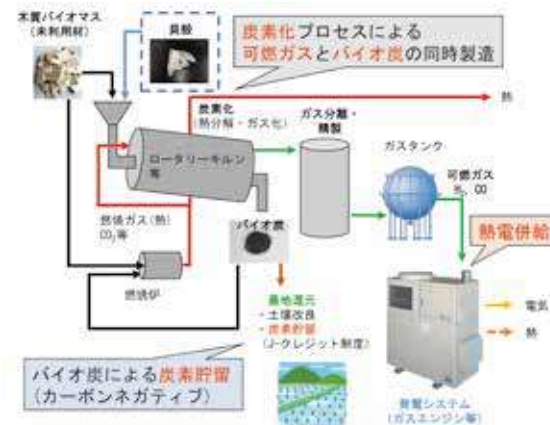


第3分野 ▶ エネルギー ◀

◆ 浜通り地域の資源を利活用した 高効率・循環型ネガティブエミッション・ 地産地消システム

共生システム理工学類: 浅田 隆志 教授(代表)

未利用材等のバイオマスの炭化プロセスにおいて生成する水素や一酸化炭素等の可燃ガスを燃料としてガスエンジン等を用いて熱電供給するエネルギー利用システムを開発し、さらに、炭化プロセスにおいて同時に製造されるバイオ炭を農地施用することにより炭素貯留するネガティブエミッション技術を構築する。



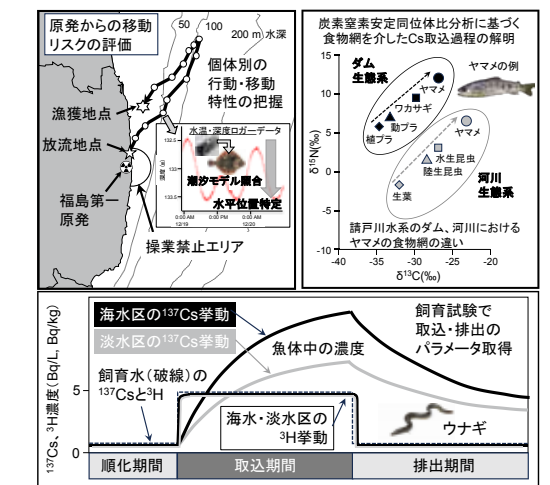
第5分野 ▶ 原子力災害に関するデータや知見の集積・発信 ◀

◆ 原子力災害に関するデータや 知見の集積・発信 (放射性物質の魚類への取込・排出メカニズム)

環境放射能研究所: 和田 敏裕 教授(代表)

事業内容

原発事故からの時間経過とともに、放射性セシウムの基準値(100Bq/kg)を超える水産物の割合は低下している。一方、原発周辺の水域に生息する一部の魚類では、基準値を超える事例も報告されている。本事業では、原子力災害に関するデータや知見の集積・発信の一環として、放射性物質の魚類(海水魚及び淡水魚)への取込・排出メカニズムを多面的なアプローチで解明することにより、水産物の安全性の評価などに必要となる科学的な知見を整理する。



正解のない問いに チャレンジ



自分を知る

自分自身のことを知る

福島大学が大切にしているものの一つに「自己の振り返り」があります。自分自身の長所や特徴を知ることが、学びと自立の第一歩だと考えるからです。自分はどんなことが得意なのか、特に何に関心があるのかを客観的に見つめることは、自分がどんな社会を創造したいのか、その未来にどんな方法で関わっていきたいのかに気づききっかけにもなります。

在学中はセメスターごとに学修目標を自分で設定し、どのような能力を伸ばすのか、どのように伸びたか「見える化」し、自己評価(振り返り)を行います。この一連のサイクルを4年間繰り返すことで、学びと自己研鑽を深化させ、自身の取り組むべき課題を発見することができます。

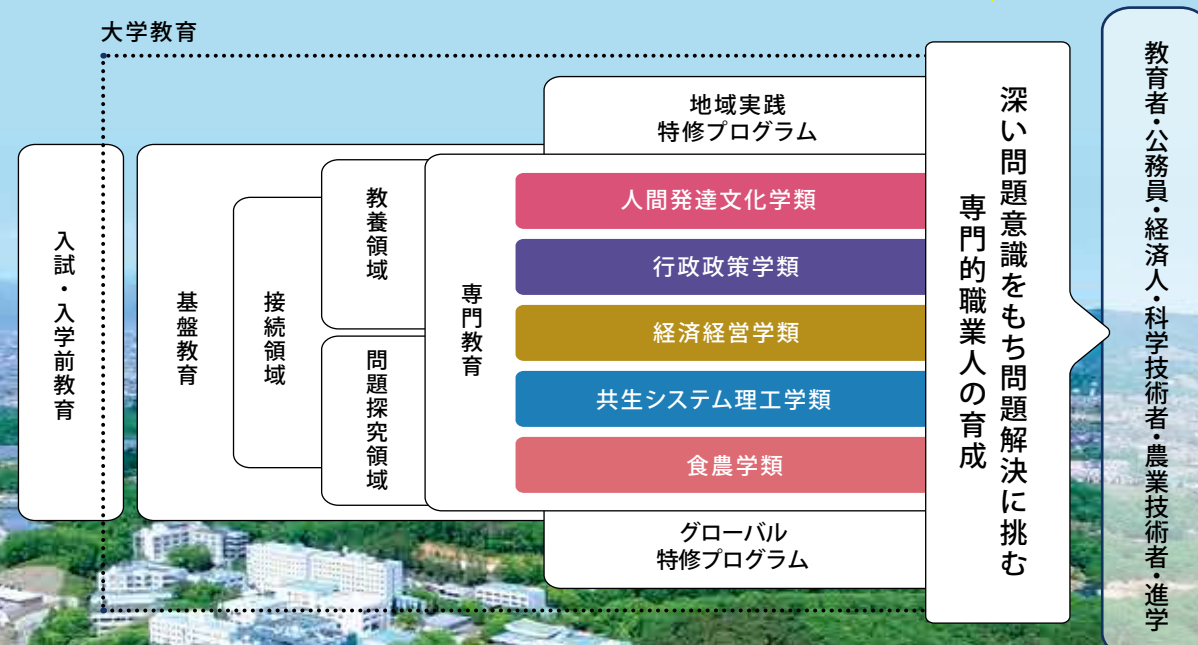
未来を考える

自分の、地域の、世界の未来を想像してみよう

皆さんが「未来」を考える土台を形成するために、本学では高校までの学びと大学での学修をつなげる教育体系として、「基盤教育」を充実させています。大学で学ぶ上で必要な基礎能力を身につけるための「接続領域」、幅広い教養の基礎を形成する「教養領域」、現実の問題をフィールドワークやグループ学修を通して解きほぐしていく「問題探究領域」を設定し、現状を分析する力や問題解決のための能力を丁寧に育みます。そして文系・理系を問わず、分析や問題解決のツールとしての基礎的な数学や理工学を理解し、社会に有益な知見を引き出すデータサイエンス教育にも力を入れています。

未来をつくるのは、皆さん一人ひとりの力です。自分が何をしたいのか、何ができるのか。地域や世界で、どんな未来を創造していくのか。福島大学でともに考え、学んでいきましょう。

福島大学における教育体系のイメージ



福島大学でしか学べないことを学ぶ！

福島県は、2011年3月、東日本大震災とそれに伴う東京電力福島第一原子力発電所事故に見舞われ、甚大な被害を被り、「Fukushima」は世界に知れ渡ることとなりました。

福島大学は東日本大震災以降、被災地のフィールドワークや地域おこし、再生可能エネルギーなどの人材育成に取り組み、ユニークな教育を進めてきました。

世界も、日本も、地域も、大きな変化の中にあり、たくさんの課題を抱え、容易に「答え」を導き出せない問題に満ちあふれています。福島大学は「正解のない問い」にチャレンジする学生を育てる教育を創造します。

1 入学から卒業まで、手厚く教職員がサポートします。



入学前教育—入学後のサポート—授業・学修—サークルやボランティア—留学などの各種活動—就職支援—卒業研究、などの4年間の学生生活を、一貫した体制でサポートしていきます。これによって、誰でも目標に向かって意欲的に大学生生活を送ることができ、さまざまな活動にチャレンジできます。

2 情報教育を実践的に変えていきます。



現代の情報化社会にふさわしい教育体系に変えていきます。各自がパーソナルコンピュータを通して、学内外のさまざまな情報にアクセスし、情報の収集や分析、まとめ、プレゼンテーションを実践します。21世紀の読み・書き・計算を身につけます。

3 初年次の基盤教育を充実させます。



1年次生が学ぶ初年次教育(教養教育)は、本学独自の教育体系です。高校までの学び(教科書に書かれた知識を学ぶ)を大学での学修(自ら主体的に学ぶ)につなげる教育体系として「基盤教育」を充実させました。入学後、大学での学びを身につけるためのスタートアップとしての「接続領域」、幅広い教養の基礎を形づくる「教養領域」、現実の問題をフィールドワークやグループを通し、時には一人で、時には学生間で意見を交わし課題を深く掘り下げ、そして解きほぐしていく「問題探究領域」が設定されています。

4 地域に学ぶ活動を強化します。



地域は多様な課題を抱えています。「地域実践特修プログラム」の「ふくしま未来学」を中心として、本学で学べる地域学修を広げ、地域の現状に触れ地域で活動する学修を増やし、問題探究・問題解決の力を伸ばします。

5 身につけた力を「見える化」します。



科目や科目群の学修目標を明示して、どのような能力を伸ばすのか、どのように伸びたのかを情報技術を使って「見える化」します。アクティブラーニングや実践的な学修を取り入れ、学生の学びを活性化させます。

6 グローバル教育を充実させます



学類を超えて、語学教育をグレードアップし、欧米圏やアジア圏との国際交流の機会や、海外留学を希望する学生にさまざまな情報や機会を提供します。

7 キャリア教育と就職支援を強化します。



本学で先進的に取り組んできたキャリア教育をさらに発展させます。自治体や企業との連携を強化し、インターンシップの機会や就職支援を充実させて、就職に強い人材、社会に出て魅力的な仕事ができる人材を育てていきます。

足とデータで **地域** の未来をひらく力を 「地域×データ」 実践教育推進室

2023年4月、福島大学では教育推進機構内に「地域×データ」実践教育推進室を新たに設置しました。

「地域×データ」実践教育推進室は、地域の現場に根差しながら課題を実証的に発見・分析・解決する力を身につけ、地域におけるEBPM（Evidence Based Policy Making：証拠に基づく政策立案）に精通した人材の育成をミッションとし、全学的な実践教育プログラムである「地域×データ」実践教育プログラムの開発・運営を行っています。

「地域×データ」実践教育プログラム

全学を対象とする「地域×データ」実践教育プログラムは、「地域×データ」実践教育推進室開講科目など基盤教育科目と、各学類の専門科目によって構成されています。

本プログラムでは、「むらの大学」「自主学修プログラム」などのフィールドワーク科目による地域実践教育と「福島大学『解のない問い』に挑むデータサイエンス教育プログラム」などのデータサイエンス実践教育を掛け合わせ「地域へのかかわりを基礎として、地域の課題を科学的に捉え、その解決に向けた主体的な取組ができる個人」の育成を目指します。

また、本プログラム対象科目を履修し、必要な単位数を取得した学生に対しては、大学卒業時にプログラム修了を認定します。

「地域×データ」実践教育プログラムの目指す人物像

地域へのかかわりを
基礎として

地域の課題を
科学的に捉え

解決に向けた
主体的な取組ができる

「地域×データ」実践教育プログラム 履修基準表

領域・科目区分		開設科目等	必修	要認定 単位数
基盤教育	スタートアップ科目	社会とデータ科学の基礎	2	12
	学術基礎科目	「地域×データ」実践教育プログラム科目	—	
	問題探究科目	問題探究セミナーⅠ	2	
		ふくしま未来学入門Ⅰ・Ⅱ	2	
		むらの大学Ⅰ・Ⅱ	—	
		データ分析入門、福島の地域データ、データサイエンス実践演習	—	
		EBPM入門、地域課題と探究指導、地域課題とビジネス、地方と若者	—	
		その他の問題探究科目	—	
専門教育	自主学修プログラム（地域実践）		—	12
	問題探究科目	問題探究セミナーⅡ	2	
	学類専門科目	「地域×データ」実践教育プログラム科目	—	
上記の基盤教育または専門教育から				6
「地域×データ」実践教育プログラム修了認定に必要な単位合計				30

※「地域×データ」実践教育プログラム科目など、プログラムの詳細は学修案内やシラバスを参照してください。

データサイエンス実践教育

データサイエンス実践教育では、積み上げ式と地域における実践を重視した教育を展開しています。

「『解のない問い』に挑むデータサイエンス教育プログラム」を構成する3科目を中心としながら、学生の関心に合わせた多数のデータサイエンス科目を開講しています。



社会とデータ科学の基礎（1年・前期）

- 調査の方法論やデータサイエンス・AIの応用事例をとおして、データを構築したり、適切なデータ分析を行ったりするために必要な基礎的な考え方やスキルを学ぶ授業です。
- 質的調査と量的調査の基礎を学修できるほか、学生の専門分野に応じて各学類で数理・データサイエンス・AIの応用事例に関する講義を開講しています。
- 2023年度より全学類の1年生を対象に必修化しています。



データ分析入門（1年以上・後期）

- 科学的な考え方を学ぶとともに、実際に自ら手を動かすことでデータ分析の基本を学ぶ授業です。
- 自らの手でデータを可視化・分析できるよう、福島県に関するデータなどを用いた演習を中心とした授業となっています。
- より多くの学生が受講できるよう定員枠を拡大しています。



データサイエンス実践演習（2年以上・後期）

- データサイエンティストに求められる基礎スキルとビジネス現場での活用事例を学び、さらにプロジェクト型演習を通じてデータ分析を活用した課題解決・提言の一連の流れを経験し、理解を深める授業です。
- 福島県内の自治体から実際のデータを提供していただき、地域の課題解決に向けた一連のプロセスをプロジェクト型学習の形で学ぶことができます。



Approved Program for Mathematics,
Data science and AI Smart Higher Education

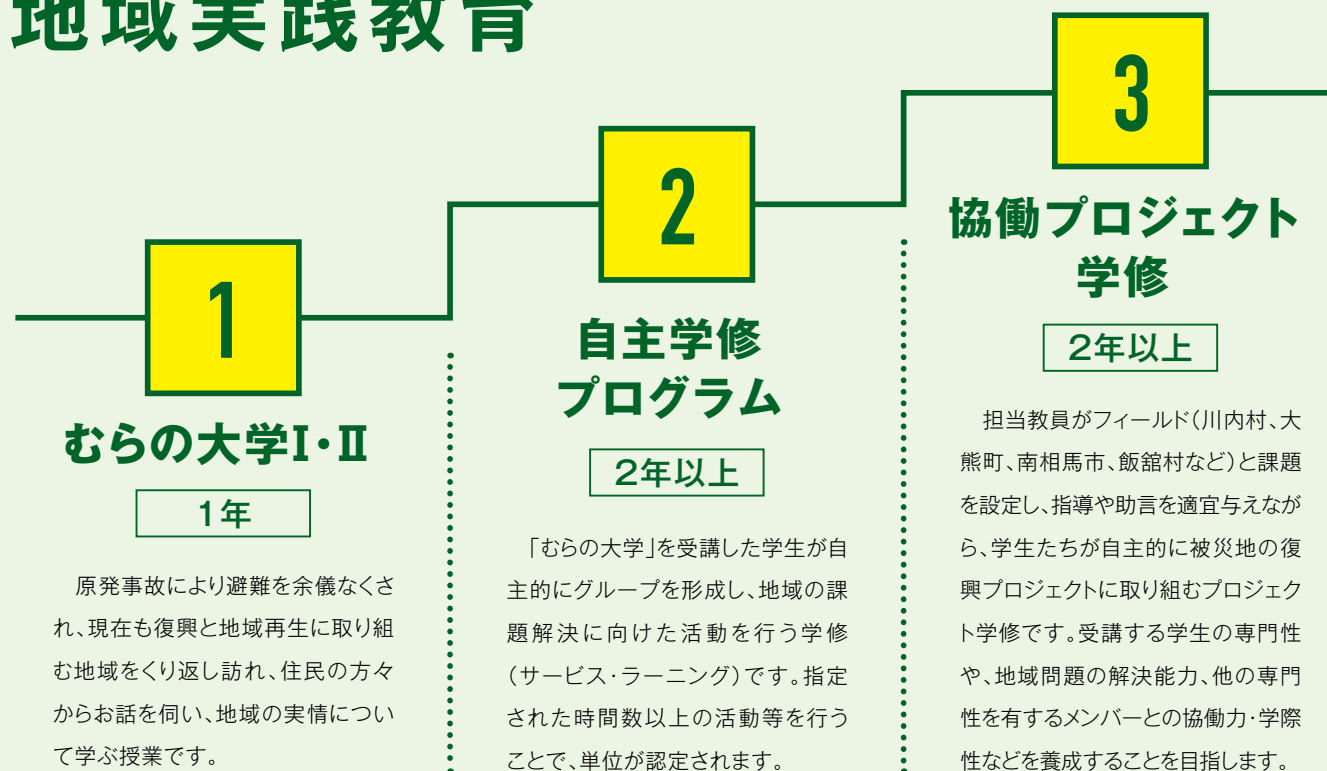
「社会とデータ科学の基礎」「データ分析入門」「データサイエンス実践演習」は「『解のない問い』に挑むデータサイエンス教育プログラム」として文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に認定されています。

その他の主な開講科目

上記3科目以外にも、データから地域を学べる多彩な科目を開講しています。学生それぞれの関心に応じた多様な科目を、地域における実践を重視した内容で展開していきます。

- 福島の地域データ（全学年・前期）
- 地方と若者（全学年・前期）
- EBPM入門（3年以上・前期）
- 地域課題とビジネス（3年以上・前期）
- 地域課題と探究指導（3年以上・夏季集中）

地域実践教育



学内では

ふくしま未来学入門I・II

全学年

- 東日本大震災と福島第一原発事故が、人々にどのような影響をおよぼし、復興に向けてどのような取組がなされているのかを、福島大学の全5学類ほかの教員や多彩なゲスト講師から学ぶオムニバス形式の講義です。
- 現場での実体験を聞くという地域実践的な学びに加え、数値データを活用した学びの観点を取り入れています。

むらの大学I・II（1年）

原発事故からの復興に取り組む地域（川内村、大熊町、南相馬市小高区、飯舘村）をくり返し訪れ、住民の方々からお話を伺うインタビューとアーカイブ（記録を残す）活動や地域イベントのお手伝いなどを通じて、地域を深く学ぶ授業です。

より多くの学生に地域に足を運んでもらえるよう、定員枠や地域の拡大、スポットプログラム「むらの大学（滞在型）」の新設を行っています。

※フィールドワークにかかる自己負担費用は原則、食費程度です。



自主学修プログラム・協働プロジェクト学修（2年以上）

学生が被災地で課題を発見し、自主的に復興に取り組むプロジェクト学修です。文系・理系の5学類が1つのキャンパスに集まる総合大学の強みを活かし、異なる専門性を持つ学生と協働しながら課題解決を図ることで、実践的な力を身につけます。

主なプロジェクト例

- 地域の特産品を使った六次化商品の開発
- 祭礼やイベントの支援活動とアンケート分析
- 除染土処分に関する学生ワークショップ
- 農地・農作物の放射性セシウム移行調査
- 被災地での教育環境を考える など



みらいバス

地域と大学をつなぐ「みらいバス」は、学生・教職員を対象とした日帰りのスタディツアーです（参加費は原則無料）。授業以外で地域を訪問するきっかけをつくるため、年間10回程度実施しています。被災地域の訪問・見学やボランティア活動を通じ、それぞれの地域の現状を学びます。

主な行き先

- 東日本大震災・原子力災害伝承館（双葉郡双葉町）
- 震災遺構請戸小学校（双葉郡浪江町）
- 大野駅および周辺市街地、中間貯蔵施設（双葉郡大熊町）など



アーカイブ

Archive

「むらの大学」の授業で、学生たちは地域住民の方にインタビューを行い、記録をまとめた小冊子を作成します。原稿の編集作業や追加取材、ご本人への確認なども全て学生たちの手で実施します。

小冊子に加え、インタビュー全文をホームページにアーカイブとして公開しています。

<https://region-data.net.fukushima-u.ac.jp/archive/>

インタビュー全文はこちらから▶



世界で学ぶ

国際交流

福島大学には、多彩な国際交流の機会が用意されています。
多くの留学生が在籍しているのも本学の特徴。国際交流は、キャンパスの中からはじまっています。

今の自分から一歩前へ パディ制度

活動期間：数日～6ヶ月程度

海外に留学してみたいけど不安がある。身近な場所で語学力を試したい。そんな皆さんに対応できるよう、福島大学には協定締結大学から来る交換留学生・短期留学生達のサポートをする「パディ」制度があります。パディとして留学生達と関わることで、彼らの文化を直接感じ、福島にいながら国際交流ができます。グローバル人材へのファーストステップとして貴重な機会となります。



多彩なプログラムで世界を学ぶ 短期研修・演習

実施期間：10日～5週間

長期休暇を利用して行う短期研修・演習では、海外の協定締結大学で語学を学んだり、フィールドワークを体験したりできます。例えば、コロラド州立大学ではアメリカの放射線研究について学ぶことができます。このほか韓国、中国、台湾、カナダ、オーストラリア等での語学研修など、多彩なプログラムが用意されています。



協定締結大学への長期留学 交換留学

派遣期間：半年または1年

大学間交流協定に基づき、海外の38大学と学生交流協定を締結し、「交換留学」を実施しています。「交換留学」とは協定締結大学への長期留学で、福島大学のみに学費を納める必要がある留学を指します。国際交流センターが留学先との調整役を務めるので、留学の準備から留学中の相談、帰国後の単位の互換まで、さまざまな手続きも安心して行うことができます。



海外で働くために必要なことを学ぶ 海外インターンシップ

実施期間：約2ヶ月

海外インターンシップ講座「WEA」は、「実際の現場で英語を使うことにより実用的な英語を身につける」がテーマです。海外で仕事をするには何が必要なのかを考えながら、海外で働くためのスキルや知識を学びます。長期休暇中に渡米して、現地でのインターンシップを行います。

例
Real English Business Internshipプログラム
(テキサス・ヒューストンでの8週間のインターン)など



専門家の指導も受けられる 語学力強化

開催期間：毎日(月曜～金曜)

英語圏への交換留学などを目指す学生に求められるのが、IELTS™やTOEFL®などの語学試験で目標スコアをクリアすることです。福島大学では、少人数制の語学力強化プログラムや、語学試験のコーチングで語学力アップをサポートしています。中でも国際交流センターが提供する「C1 Project」は、語学試験対策の専門家によるきめ細やかな受験指導に人気が集まっています。



奨学金制度について

「留学の費用に不安がある」という方も安心してください。福島大学には経済的な負担軽減を目的とした給付型の奨学金制度が準備されています。2024年度は、交換留学、短期研修、海外インターンシップに参加した多くの学生が奨学金を受給しました。

詳しくは、国際交流センターに
お問い合わせください！

交換留学

国際色豊かなアメリカの大学に身を置き、 政治や政策が社会に与える影響を実感

行政政策学類 地域社会と文化コース 4年
[宮城県立白石高等学校出身]

一條 紗矢香さん

留学先 オザークス大学[アメリカ]
(2024年8月22日～2025年5月14日)
※学年は取材当時のものです。



日本の政治や行政を専門的に学ぶ中で、国によって、政治制度や政治決定のプロセスにどのような違いが有るか興味を持つようになりました。アメリカは多様な人種や文化を持つ人々が共存しているため、どういった政策が形成・運営されているのか現地で学ぶことで、日本の行政との比較を深めることができると考えました。

2025年の春学期では、4つの授業を履修しており、アメリカの政治体制の歴史や、選挙制度の仕組みについて学んでいます。アメリカは三権分立が明確となる大統領制を採用し、連邦政府と州政府の権限が分かれる独特の体制を敷いている点や、それぞれの州や地域のニーズに応じた政策が展開されている点も、日本の政治体制とは異なる特徴です。こうした違いを実際に現地で学ぶことで、日本の制度をより客観的に捉えられるようになりました。

アメリカの大学では、ディスカッションが重要視される特徴があります。学生が積極的に意見を述べ、活発に教授との議論が交わされています。英語で自分の考えを伝えることに大変苦労しましたが、徐々に自信がついてきました。オザークス大学は少人数制の授業が多く、教授との距離が非常に近いことも魅力の一つです。多くの教授が学生の学びを支援するために個別相談の時間を設けており、課題や授業内容について直接指導を受けることができます。また、約800人の学生のうち、約200人は26カ国以上からの留学生です。そのため、国際色が豊かで、アットホームな雰囲気

が特徴です。週末には、現地の学生や他の留学生と大学周辺をサイクリングしたり、ボランティア活動に参加したりしています。異文化の中で生活するには、柔軟な考え方や積極的な姿勢が必要です。

今後は、アメリカでの留学経験を生かし、日本と海外との政治制度や行政の違いを取り入れた、より良い多文化共生が可能となる政策の立案に貢献したいと考えています。

福島大学では、英語で行われる講義を積極的に履修し、英語力の向上に努めました。留学を決意した3年次からは、国際交流センターで開催されているC1 Projectに毎日参加しました。また、日頃から海外のニュース番組や英語のポッドキャストを聞くことで、日常で使われる英語に触れるようにしました。

現在、アメリカ社会全体で、政治に関する議論がより活発になっていると感じます。このような環境の中で学ぶことで、政策が社会に与える影響をより実感できるようになりました。



Fukushima Ambassadors Program

2012年にスタートした本プログラムは、これまでのにべ680人以上の福大生が世界各国17大学の留学生と共に、福島「過去」「現在」「未来」について学んできました。震災経験者の講話、福島第一原子力発電所の視察、研究所や農地などでの実地研修、地域の復興を支援する体験活動など、多面的・多角的かつアクティブなアプローチで参加者の理解を深めます。本プログラムに参加することで、留学生をサポートしながら、他の参加者との協働学習を通じて、地域の国際アンバサダーとなり、世界からみた福島イメージ変革にも貢献できます。きっと一生の友人もできることでしょう！



Fukushima University International Center

国際交流センター

平日 9:00～12:30 / 13:30～17:00



福島大学国際交流センターは、国際交流の窓口として学生の皆さんのサポートや、情報発信を行っています。ここでは、本学と学術・学生交流協定を締結している大学の情報や、留学の報告書などを閲覧することもできます。また、留学や語学学習に関する図書の貸出や、希望者には語学試験対策も提供しています。留学に関わる生活や学習の相談、在留資格、地域のイベント案内、手続きなども確認することができます。

